

平成 22 年度 年度計画の主な内容

公立大学法人名古屋市立大学

教 育

- (1) 薬学部薬学科の 5 年次の学生に対して、病院と保険薬局での臨床薬学実務実習を実施 [15]
- (2) 薬学研究科大学院 2 系統（2 + 3 年制と 4 年制）の 23 年度発足に向けた大学院設置検討委員会を設置 [17]
- (3) G P A 制（Grade Point Average の略で、欧米で一般的に行われている成績評価制度）を全学的に導入（単位制をとらない医学部を除く） [26]
- (4) ファカルティディベロップメントについて、新たに設置する予定の F D 推進センターに専任教員を配置し、全学の F D を改善・改革 [33]

学生支援

- (1) 昨今の厳しい経済状況に対応するため、授業料減免枠を拡大し、積極的に学生を支援 [37]
- (2) 学生の就職活動の進捗状況を把握する就職支援システムを導入 [90]

研 究

- (1) 芸術工学研究科の環境デザイン研究所や、システム自然科学研究科の生物多様性研究センターなどで、環境問題に関する研究を推進 [39]
- (2) 経済研究所において、従来からの「プロジェクト研究」に加え、「調査研究部門」及び「データ分析部門」を立ち上げ、研究所の地域貢献活動を活性化 [43]
- (3) 生物多様性研究センターにおいて、生物多様性に関する研究ならびに遺伝子データベース作成のための試料収集と解析を実施 [48]

社会貢献

- (1) 開学 60 周年記念事業の一環として、生物多様性条約第 10 回締約国会議（C O P 10）の名古屋開催と連携して、「生物多様性」に関する国際シンポジウムを開催 [57]

附属病院

- (1) 総合内科、救急部及び愛知県を設置する寄附講座が連携した全科協力体制による「救命救急教育センター（仮称）」の設置 [68]
- (2) 東棟の建設に着手し、MRI 需要への対応を踏まえ、体制整備等の運用準備を推進 [71]
- (3) NICUを3床増床の運用を開始し、周産期医療を充実 [79]

業務運営等

- (1) COP10 ムーブメントの継承ならびに地域理科教育の活性化を目的とした理学部環境理学科の創設準備を進める一方、人文社会学部の再編強化に着手し、山の畑キャンパス将来計画について基本構想を策定 [94]
- (2) 地方独立行政法人としてのメリットを発揮し、また市の長期戦略推進の一翼を担うためにも、設置者との間で大学の位置づけを協議するとともに、大学法人の事務職員の固有化とその昇任・選考制度の構築により、役付け職員への登用を促進 [97]
- (3) 教員業績評価制度の試行実施の結果を検討し、本格実施に向けた準備 [99]
- (4) 老朽化した経済学部校舎の改修整備 [112]及び薬学部校舎改築第2期工事の実施設計 [116]

平成22年度予算

(単位:百万円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	7,165
自己収入	21,986
授業料及び入学金検定料収入	2,439
附属病院収入	18,957
雑収入	590
施設整備費補助金	57
受託研究収入等	1,508
目的積立金取崩	1,712
計	32,428
支出	
業務費	30,162
教育研究経費	2,286
診療経費	12,355
人件費	15,521
一般管理費	701
施設整備費	57
受託研究費等	1,508
計	32,428